

## 研究概要

### 1. 研究名称 または課題名テーマ等

側弯症手術後の手術後の中高年期における変化の臨床研究

### 2. 研究責任者(当院)

所属：整形外科

氏名：赤澤 努

#### 共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：該当なし 代表名：該当なし

### 3. 分担研究者

所属：整形外科 氏名：小谷 俊明、佐久間 毅、飯島 靖、南 昌平

所属：放射線科 氏名：園田 優

所属：リハビリテーション室 氏名：加藤木 丈英、白井 智祐

所属：医療情報管理課 氏名：依知川 友理、近藤 奈々

### 4. 研究対象者

2009 年 1 月 1 日～2016 年 12 月 31 日の間に、聖隷佐倉市民病院において

側弯症手術例の長期臨床成績のために患者立脚型質問票の調査または来院し検査を受けた患者。

### 5. 研究の必要性

側弯症の手術は、思春期に施行されることが多く、そのため長期的な経過観察が必要である。これまでの諸家の報告では、術後患者の腰痛や日常生活動作など良好であるとの報告が多い。しかしながら、これまでの報告は調査時の年齢が 30 歳代を中心にしており、その後に中年期を迎えた術後患者についての成績は明らかであるとはいえない。2009 年および 2014～2016 年に調査を行い、側弯症手術例の長期臨床成績、とくに画像的变化や臨床検査結果と腰痛、日常生活動作の関連を明らかにした。しかし、これら患者の中高年期における変化は明らかでなく、とくに画像的变化や臨床検査結果と腰痛、日常生活動作の関連を調査することにより、脊柱矯正固定術の長期での影響を明らかにする。

### 6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究における調査は、通常の診療で行われている患者立脚型質問票、単純 X 線、MRI、CT、骨密度検査、肺機能検査、採血検査、筋力測定を行い、本研究に対する安全性には特に問題はない。脊柱矯正固定術の長期での影響を明らかにする事により、現在行われている手術治療の改善を期待できる。

### 7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151

担当者氏名：依知川友理

対応時間：平日 8:30-17:00

#### 共同研究において専用窓口がある場合

該当なし

#### ※ご注意

対象者とは、本研究に参加された方です。  
お問合せは、本研究に参加された方と  
研究関係者のみで、その他の方へのご対応  
はできませんので、予めご了承願います。